

令和3年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

富士のさと 中学会議所

令和3年7月～12月 全8回

①7/18 ②7/22 ③7/23 ④10/10
⑤10/24 ⑥11/3 ⑦11/23 ⑧12/18



○趣旨

地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、中学生の視点で、その解決に向けて取り組む体験活動を通して、課題解決力を養うとともに、持続可能な社会づくりに向けて貢献できる人材の育成を目指す。



○参加者

中学生 17名（1年生1名、2年生14名、3年生2名）

○協力（サポーター）

静岡大学未来社会デザイン機構、御殿場市未来プロジェクト課、御殿場青年会議所
御殿場市教育委員会、小山町教育委員会、高校生ファシリテーター など

○事業の内容

1日目 7月18日（日） 9:30～16:30

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">意見を言いやすい雰囲気の醸成課題を見つける→改善のためのアイデアを立てる（仮説立案） | <ul style="list-style-type: none">出発式ガイダンス野外炊事グループワーク 『交流の家のファン増加プロジェクト』 | <ul style="list-style-type: none">高校生ファシリテーター3名 |

探究的な学びを進めていく上での心構えを学んだのち、課題解決型の野外炊事やグループワークに取り組み、情報のまとめ方やアイデアの出し方などを学んだ。



2日目 7月22日（木） 9:00～17:00

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">講話やフィールドワーク、高校生の学びを身近に感じるなど日常では得難い体験をする。探究のプロセスを体験する。 | <ul style="list-style-type: none">グループワーク 『交流の家のファン増加プロジェクト』 <ul style="list-style-type: none">講話『地域づくりの実践』フィールドワーク『地域の魅力を発見』グループワーク『地域理解』 | <ul style="list-style-type: none">高校生ファシリテーター3名麻生じゅんな氏勝亦健太氏荒井仁氏宮坂里司氏 |

地域づくりの実践家の講話を聴き、地域づくりへの関心と意欲を高めた。フィールドワークでは、地域づくりに関する活動を体験し、その魅力を発見するとともに、地域が抱えている課題について考察した。



3日目 7月23日(金) 9:00~17:00

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・講話やフィールドワーク、高校生の学びを身近に感じるなど日常では得難い体験をする。 ・探究のプロセスを体験する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク『課題解決の基礎』 ・フィールドワーク『地域課題の探究』 ・発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター3名 ・勝亦健太氏 ・荒井仁氏 ・宮坂里司氏 |

前日のフィールドワークにおいて感じた地域の課題の改善策（仮説）についてアイデアを出し合い、グループ全員で共有した。フィールドワークでは、仮説を検証するためインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な改善策を探ったりした。



4日目 10月10日(日) 9:00~16:30

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて理解を深める。 ・SDGsの視点を持ち、まちを元気にする方法について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義・グループワーク『SDGsとは』 ・SDGs ミッションウォークラリー ・講義・グループワーク『SDGsを踏まえ、御殿場市を元気にする方法を考える』 ・フィールドワーク・グループワーク『SDGsを見つけよう』 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター3名 ・宮代英和氏 ・高木裕輔氏 ・勝又靖博氏 ・白木賢信氏 |

午前には交流の家のプログラム『SDGs ミッションウォークラリー』を行い、SDGsについて理解を深めた。午後は講師を招いて講義・グループワークを行い、SDGsの視点でまちづくりを考える体験を行った。



5日目 10月24日(日) 9:00~16:30

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の手法を体験する。 ・まちを元気にする（魅力発信）計画を立てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・動画作成基礎講座 ・講義『まちを元気にする取組実践例』 ・グループワーク・個人ワーク『まちを元気にするための取組計画を立てる』 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター2名 ・鈴木翔也氏 ・阿部耕也氏 |

午前には情報発信の手法の1つとして、動画作成について学び、スマートフォンやタブレットを用いて30秒動画を作成した。午後は講師を招いて講義・グループワークを行った後、これまでの活動を踏まえて、『自分のまちを元気にする（自分の周囲の誰かを笑顔にする）ための取組計画』を考えた。



6日目 11月3日(水) 9:00~16:00

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・まちを元気にするための取組計画を立てる。 ・まちを元気にするための取組の準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター1名 |

午前は前回に引き続き、『自分のまちを元気にする（自分の周囲の誰かを笑顔にする）ための取組計画』を考えた。「課題設定」→「仮説」→「取組計画立案（5W1Hの視点で考える）」等ワークシートを用いて行った。午後は取組計画に沿って各自で準備を進めた。

7日目 11月23日（火） 9:00～16:00

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・まちを元気にするための取組計画を進める。 ・最終日の発表について流れを理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・大学生の取組の発表を聴く | <ul style="list-style-type: none"> ・阿部耕也氏 ・静岡大学地域創造学環学生5名 |

取組計画に沿って各自で準備を進めた。また、まちを元気にするための取組を実践している大学生の発表を聴き、大学生の視点やプレゼンを参考にする機会とした。



8日目 12月18日（土） 9:00～16:30

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備をする。 ・まちを元気にするための取組を発表する。 ・これまでの活動をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・発表会 ・卒業式 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター3名 ・阿部耕也氏 ・小宮隆氏 ・杉山真彦氏 ・鈴木翔也氏 ・関谷葉子氏 |

午前は発表会に向けて、構成や伝え方などプレゼンの基本について学び、準備を行った。午後は『自分のまちを元気にするための取組計画』について発表を行うとともに、協力者からフィードバックをもらうことで、これまでの学びをさらに深化する機会とした。



オープンハウス 2021 ～SDGs フェスタ～ 12月25日（土） 9:00～16:00 【希望者のみ】

| ねらい | 活動内容 | 協力者 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・まちを元気にするための取組を発信する。 ・まちを元気にするイベントの運営に携わる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験ブースの企画・運営 ・事業運営の補助（全体・体験ブース） | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ファシリテーター2名 |

体験（簡易なゲーム）を通して子どもたちやその家族にもSDGsを知ってもらうおうと、オープンハウス2021でのブース出展を企画し、事前の準備から当日の運営までを協力して行った。



○アンケート結果

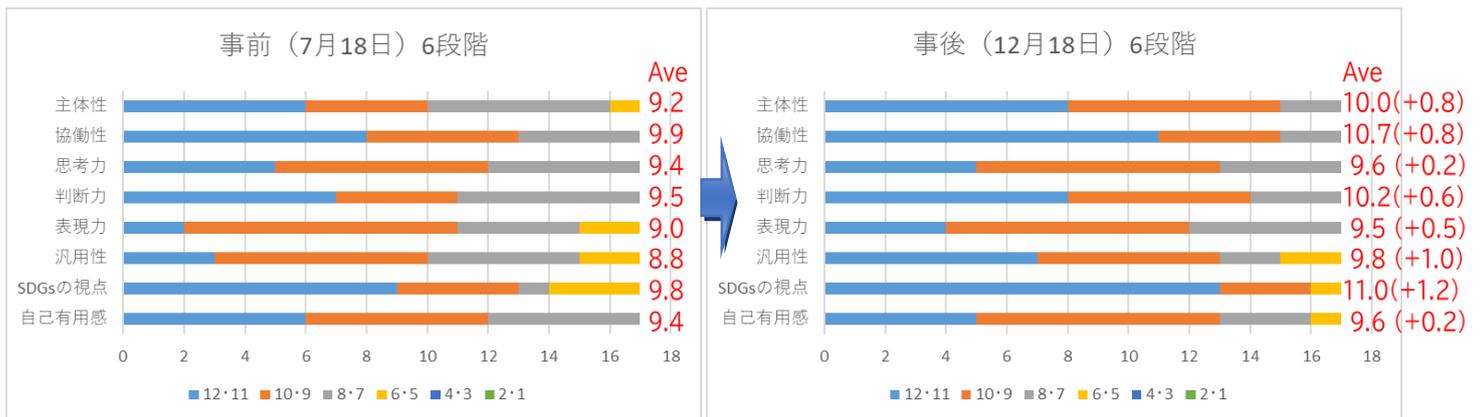
本事業の参加者に対して、事業1日目（7月18日）の出発式直後と、8日目（12月18日）の卒業式直前にアンケートを行った。

事業のねらいである「課題解決力を養う」「持続可能な社会づくりに向けて貢献できる人材の育成」を踏まえ、アンケート項目は以下のように設定した。

| | | | |
|-----|------------------------------|---------|------------------------|
| 主体性 | 物事を前向きに考え、行動することができる | 表現力 | 話し合いの場では、自分の意見が言える |
| | 見通しを立て、自分で計画を立てられる | | 自分の考えを、うまく伝えることができる |
| 協働性 | 人の意見を聞いて、自分の考えを深めることができる | 汎用性 | 学んだことを応用して発揮することができる |
| | ゴール（目標）に向かって、仲間と協力して進むことができる | | 知識をいろいろな機会を活用できる |
| 思考力 | 筋道を立てて考えることができる | SDGsの視点 | SDGsについて関心を持っている |
| | いろいろな視点から物事を考えられる | | SDGs達成のために、意識して取り組んでいる |
| 判断力 | いろいろな情報を整理してより良いものを選ぶとする | 自己有用感 | 自分は人の役に立っている |
| | 根拠を基に判断することができる | | 自分のことが好きである |

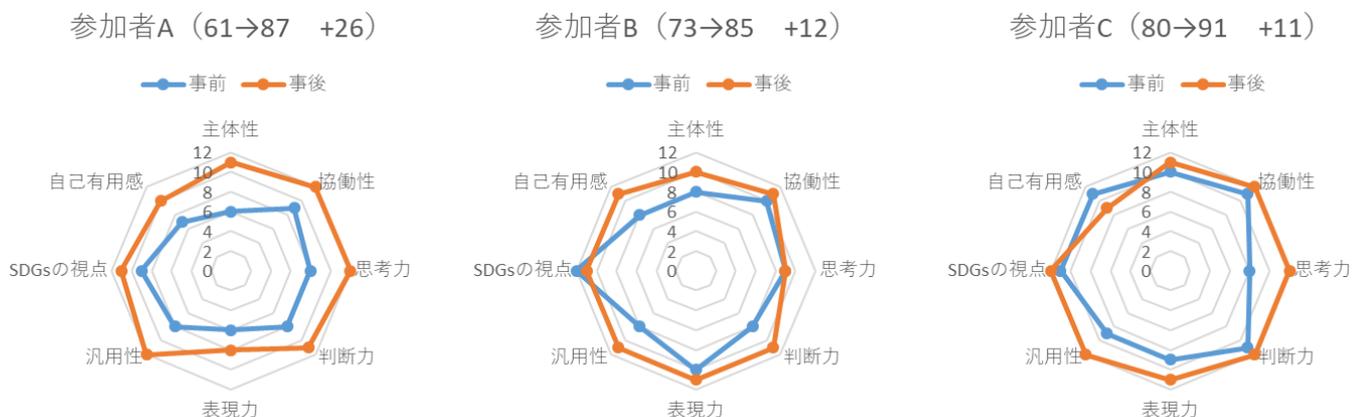
- ・ 質問項目は、大項目 8×小項目 2=16 項目
- ・ 各項目においては、「とてもよくあてはまる」と「まったくあてはまらない」を両端とし、6段階（1~6点）の間隔尺度となっている。
- ・ 満点は大項目ごと 12 点、すべての項目を合わせると 96 点となる。

【全体の変容】



- ・ 8 項目すべてに上昇が見られた。
- ・ 『SDGsの視点』『汎用性』『主体性』『協働性』の順に有意な向上が見られた。

【個人の変容】



- ・ 参加者 A は 60 点台から、参加者 B は 70 点台から、参加者 C は 80 点台から 10 点以上の上昇が見られた。

【事業後アンケート 一部抜粋】

発表を終えて仮説や取組内容、今後の展望などで変わったことがあったら書いてください。

- ・VRを使ってスポーツ体験をする、というのが最初の取組だったけど、発表を通してVRの強みを生かして観光することもできるなと思った。
- ・協力者の皆さんや仲間の意見を聞いて、自分なりには工夫していたけどもっと工夫できると思った。マネできることはどんどんマネしてより良い作品にしていきたい。
- ・序論や結論の入り方を工夫するなど、どうすれば興味を持って聞いてくれるか考えることは大事なことだと改めて思った。
- ・SDGsの認知度を高めるカルタを作成したが、御殿場市独自の内容も絡めたり、大人も楽しめたりするような改良版を作成したい。

事業の満足度 (4段階評価で3以上100%)

- ・フィールドワークのお茶摘み&お茶づくり体験や、SDGs ミッションウォークラリーなど、楽しみながら多くのことが学べた。実際に体験できたのも良かった。
- ・コミュニケーションと学び方の2つが特に自分の力に繋がったと思う。
- ・グループワークやフィールドワークを通して、他人の考えを親身に聞くことができるようになったり、地域への理解を深めたりすることができた。
- ・一日だけじゃ考えが深まらないと思うので、コロナで大変な時期だったが8回も参加して、考えることができて良かった。
- ・たくさんの人が優しくサポートしてくれたので、最初はガッチガチに緊張していたけどすぐにほぐれて、「また来たい!!早く会議所に行きたい!!」と思えるようになった。

「ぜひまた『探究』してみたい」と思えた (4段階評価で3以上100%)

- ・中学会議所を通して、課題を見つけ解決することの楽しさを知ることができたから。
- ・高校でも使えるし、自分の未来のためにもなるからやってみたい。
- ・仲間や第三者の意見が参考になるから。 ・新しい自分に出会えたから。
- ・何度も練り直していくという作業が楽しいと思ったから。
- ・とても楽しい探究活動だったので、またこのような事業に取り組みたい。

○成果と課題

成果

- ・たくさんのサポーターの協力を得て、フィールドワークやグループワークなど多様な体験活動の機会を設けることができた。また、様々な人々との出会いや交流が、参加者の学びを一層深めることに繋がっていた。
- ・自分に合った課題を設定し、その改善に向けた活動（実践活動）まで行うことができた。
- ・学びを支える側（スタッフや高校生ファシリテーターなど）も、論理的思考を促すプログラムを考えたり、ファシリテーションスキルについて学んだりする機会となった。
- ・ともに学び合った参加者同士、さらには地域づくりの実践家との間に繋がりを作ることができ、この後の活動に向けて協力し合える良い関係を築くことができた。



SDGsの認知度を高めることを目指して作成したカルタ

課題

- ・参加者とサポーターの日程を調整しながら全8回の日程を設定することが難しかった。特にコロナ禍においては、学校の活動（部活動など）の日程も見通せず、非常に困難であった。
- ・参加人数が少ないと、グループワークを行っても考えが深化しづらく、質の高い学びを保障することが難しいと感じた。また、体験活動を通しての学びについては、欠席者に欠席分の学びをフォローすることも難しく、大きな課題だと考える。
- ・高校でさらに探究活動をしたい参加者は「地域探究プログラム（高校生対象の探究学習事業）」に参加したり、中学会議所にファシリテーターとして参加したりするなど、中・高の事業の連携を図っていき、継続的に学べる環境の整備を進めていきたい。